

気象庁の期間予報とは異なり、相変わらず2月下旬から3月中旬にかけては、寒暖が繰り返される不順な天候が続いて来ています。今期は太平洋側に低気圧が発生しやすく、大陸側に高気圧、所謂「西高東低」の冬型気圧配置が度々現れ、西日本にも北極寒気団の流入することもあり、気圧配置の関係で北西の風が強い日が多いので気温以上に体感温度は低く感じるのでしょうか。また1月～2月上旬、中旬の気温が異常に高い期間があった為、最近では寒いと感じることが多いのではないのでしょうか。

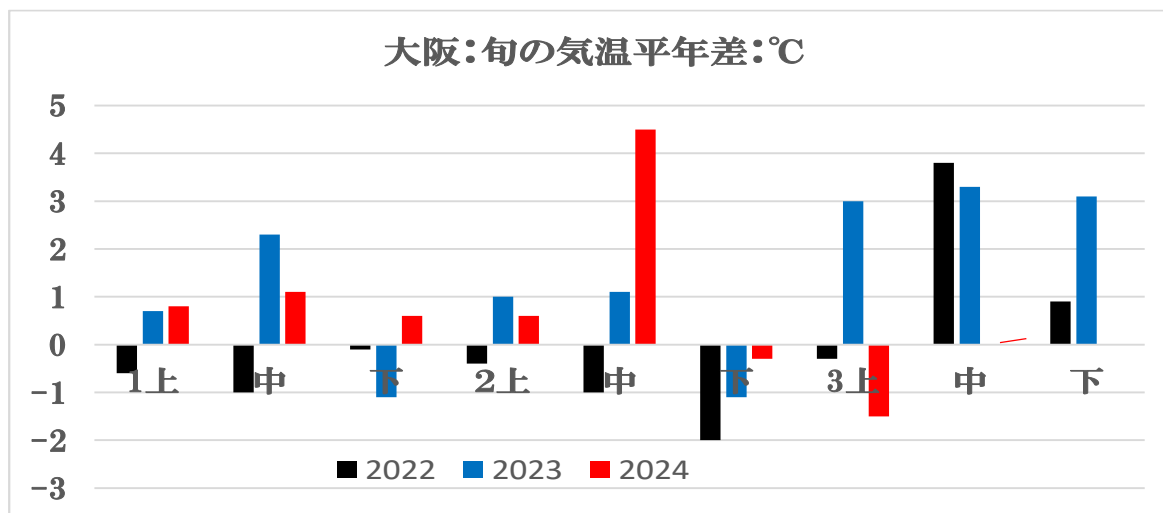
参考の為、大阪管区气象台のデーターを基に、一昨年から今年までの3年間、1月以降3月までの旬の気温を平年値と比べどのようになってきているかをグラフ化して見ました。

こんな気象条件下で今年の「サクラ」の開花はどうなるのでしょうか？気象庁は今後の気象をどのように見ているのでしょうか？また、これまでの気象経緯、予報等から気象予報会社などは今年のサクラ＝ソメイヨシノの開花や満開をどの様に見ているのでしょうか？前報でお知らせした、早咲きのヒカンザクラやカワズザクラは落花から葉桜にかわりつつあります。これ等以外の観察を続けて来ている早咲きのザクラ類の開花状況等を書き連ねて行きたいと思います。



1. 今期及び過去2年間の1月～3月の気温・降水量の経過：平年差で見る（大阪・西宮アメダス）

*気温の偏差グラフ（平年に比べどの程度高かったか、低かったかを示しています。）



- ・上のグラフから、2022年度は気象庁の予報したように寒い冬であったことが分かります。
大阪でのサクラ開花日は前報で記載のとおり2022年は3月25日平年より2日早い開花となりました。
- ・2023年、昨年度は1月末から2月末まではほぼ平年並みの気温、花芽の休眠打破は平年並みに推移し、3月以降の気温が異常に高くなった為、各地で平年以上に早いサクラ開花となりました。近畿圏

でも京都で最速の3月17日の開花が記録され、大阪でも3月19日と最速タイの開花日となりました。北日本では、平年比10～2週間も早い開花が見られて地域もありました。

・今年、2024年度は暖冬気味、特に2月中旬には4月末並みという日もありました。この結果、サクラの休眠打破は遅れたものの、気象庁の長期予報でも3月以降の気温の高い日が続くと発表されていたので、気象会社等も、休眠打破の遅れをカバーし、平年より早くなるとの開花予報を発表して来ている。上図のように3月に入ってから寒暖を繰り返す気象となり、平均的に見ればグラフからも分かる様に若干平年を下回って来ているというのが実情ではないでしょうか。

*降水量について・・・。

これまで「ソメイヨシノ」の開花挙動（開花・満開・咲き終わり等）に関しては、休眠打破及びその後の「芽」の成長という観点から、気温の経緯を中心に論じて来た。また、気象関係の専門家でも同様にこの視点で予報や見ごろを発表して来ている。

昨年、私はこの様な「ソメイヨシノ」の生き様には「揚水」が大きく影響するのでは無いかとの問題を提起いたしました。特に、春期の開花挙動・展葉などへの影響が大きいのではないかと考えたのです。この、春期の揚水には開花前・開花中の降水量が大きく関係する可能性が高いことは容易に類推できます。そこで、当方に最も近い降水量測定点である「西宮アメダス」の平年値（2006～2020年）とここ3年間の月、及び2月、3月の旬降水量を調べて見た結果は下記の通りでした。

西宮アメダスの降水量記録

単位:mm

月	12月	1月	2月上旬	2月中旬	2月下旬	3月上旬	3月中旬	3月下旬
平年	63.3	46.9	14.5	31.5	27.8	40.9	35.5	39.2
2022年度	56.5	18.0	0	17.5	0	17.5	55.0	37.5
2023年度	20.0	59.0	5.0	14.5	11.5	0	47.5	42.0
2024年度	26.0	22.0	18.5	30.0	67.0	23.0	36.5	

*本件に関しては後述する。

2. 気象庁の近畿の向う3月の気象予報

気象庁は3月20日に4月以降の3ヵ月の気象予報を発表しました。全球的な見通し、これに伴う近畿地方の気象予報を以下のように予報されています。

*全球的に

・地球温暖化や終息に向かうエルニーニョ現象の影響等により、全球で大気全体の温度がかなり高いでしょう。

・インド洋熱帯域で海面水温が高く、積乱雲の発生はインド洋熱帯域で多い一方、フィリピン付近で少ないでしょう。

・この影響により、日本の南で太平洋高気圧の西への張り出しが強く、日本付近には南から暖かく湿った空気が流れ込みやすいでしょう。

・これらのことから、日本付近は暖かい空気に覆われやすいでしょう。また、西日本太平洋側と沖縄・奄美では前線や湿った空気の影響を受けやすいでしょう。

＊近畿地方（04月～06月）向こう3か月の天候の見通し

向こう3か月の気温は、暖かい空気に覆われやすいため高いでしょう。

向こう3か月の降水量は、近畿太平洋側では、前線や湿った空気の影響を受けやすい時期があるため、平年並か多いでしょう。

＊4月：近畿太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

気温： 低 20 並 30 高 50% 降水量太平洋側： 少 30 並 30 多 40%

＊5月：天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

気温： 低 20 並 30 高 50% 降水量太平洋側： 少 30 並 40 多 30%

＊6月：近畿太平洋側では、前線や湿った空気の影響を受けやすいため、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。 気温： 低 20 並 30 高 50% 降水量太平洋側： 少 20 並 40 多 40%

3. 今年のソメイヨシノの開花日は？

既報のように、サクラの開花と言えば何と言っても日本人の意識では「ソメイヨシノ」、最近は夕方のニュースの天気予報の番組の中でも気象予報士によって、地域の開花予想・根拠が良く伝えられます。

一方、大手の気象会社も競って全国や地域の側近の開花予報を発表して来ています。第5報でも日本気象（株）の近畿地区の開花予報を報じましたが、同社の新しい発表（第5次）を挙げておきます。

[2024年3月19日 日本気象協会第5回・発表]

22日頃まで寒の戻りとなり、桜の開花は前回の予想より2、3日遅い傾向に。桜の開花、満開ともに全国的に平年並みか平年より早め。全国トップは高知で20日に開花。東京は24日に開花、30日に満開予想。3月に入り、気温は3月半ばまで全国的に平年より低く推移しました。一方、先週末は土日ともに東京都心で最高気温が20℃を超えるなど、春本番の陽気となったところも多くなりました。このあと、3月22日ごろにかけては寒気の影響を受け、気温は平年より低く推移する見通しです。その後は、3月末まで平年より高く推移する所が多いでしょう。前回(第4回)予想時より、22日ごろにかけての寒の戻りの影響を考慮し、東京の予想日を24日とするなど、各地で予想日を2～3日程度遅い予想へと変更しています。気象台の標本木は、20日に高知で、22日には広島や名古屋などでも開花し、24日には東京や京都などでも開花となるでしょう。3月末までに九州から北陸にかけての広い範囲で開花する見込みです。3月末までに満開となるのは開花の早い一部の地域に限られるでしょう。4月に入ると各地で満開を迎え4月上旬は九州から東北南部にかけての広い範囲で満開ラッシュとなるでしょう。

近畿地方の開花・満開日の予想日は下記の通りです。

地点		開花予想日	満開予想日
大阪府	大阪市	3月25日	4月2日
奈良県	奈良市	3月26日	4月3日
京都府	京都市	3月24日	4月1日
滋賀県	彦根市	3月28日	4月5日
兵庫県	神戸市	3月28日	4月5日
和歌山	和歌山市	3月25日	4月1日

青字は前回から変更され、開花日、満開日も当初予想より遅くなっています。参考にして下さい

4. サクラの開花情報

*オカメザクラ

品種名からは日本産の園芸品種かと思われるかも知れませんが、イギリス生まれ。カンヒザクラとマメザクラ（富士桜）を交配して作ったものが逆輸入された品種です。花色が濃くて華やかでありながらも、樹高が大きくなならないことから、人通りの多い場所の街路樹や狭い庭のシンボルツリーとして使われています。画像は、3月7日私用で出かけた際、阪神・西宮駅北の山手幹線道路の沿いの民家の庭先で見かけたもの。ほぼ満開の状態であった。全体には少し濃い紅色に見えるが、左の画像のように萼筒が長く深紅色、花は直径は1～1.5センチほどと小さく紅色であるが下向きに咲くためカンヒザクラのように濃い紅色が目立つ。オカメザクラの開花時期は普通、3月中旬～下旬だが地域や天候によっては2月下旬から4月上旬になるとのこと。カンザクラより1ヶ月ほど遅く、ソメイヨシノより2週間ほど早い。近郊の名所としては京都の長徳寺、大阪の鶴見緑地などがあるとのこと。Yさんからは度々満開時の写真だよりを頂いていた。



**セイヨウミザクラ

このサクラの植えられていることを知ったのは一昨年。シナミザクラと同じ芦屋市・翠ヶ丘町のマンションの敷地内に植えられています。一昨年は気付いたときには既に満開となっていました。昨年、今年は、近くなので日参、昨年は開花が3月5日、満開が3月8日でしたが、今年2024年の開花は3月2日でしたが満開は3月10日でした。



*シナミザクラ

住いの近くに3ヶ所シナミザクラが植えられており、その内の1本を標準木に決めて、開花・満開などを観測して来ています。花期は上記のセイヨウミザクラとほぼ同じ時期に開花するようです。

・標準木について、ここ5年間の開花記録を並べておきます。

	開花日	満開日
2020年	3月 4日	3月 9日
2021年	2月 27日	3月 3日
2022年	3月 12日	3月 15日
2023年	3月 8日	3月 11日
2024年	3月 4日	3月 12日

*他に開花3月6日、満開3月12日の樹もあります。



・2022年～2024年の3年間の気温偏差図と、上記の3年間の開花記録を比較して見て下さい。

・開花日は？

1～2月の気温に依存していることが分かります。

2022年は1～2月の低かった為、開花日が遅くなっています。

2023年は1月下旬～2月下旬までは平年並み、2022年よりは早い開花となりました。

今年は気温が高かった為、開花は早めとなりました。

・開花期（開花から満開までの日数）はどうでしょうか？

2022年、2023年度の開花期は4日間であるのに対して今年は（7日）～9日間と倍になっていることが分かります。一般にサクラの芽（花？）などの成長は10℃前後では5℃上がれば2日分の成長、10℃上がれば3日分の成長になると言われていますが・・・花期の3月の偏差値を比較してみると、今年は花期気温が5℃程度低いので、ほぼこの法則？に準じていることが分かります。

・以上の傾向は上述のセイヨウミザクラの開花や花期についても同様であると言えます。

＊．ケイオウザクラ

まず「ケイオウザクラ（啓翁桜）」とは・・・名前の由来や、誕生、樹の特性については2021年度の「サクラだよりー4」に詳述していますが、一部を再掲しておきます。本種はシナミザクラとヒカンザクラの交雑種と考えられます。

「サクラ切る馬鹿・・・」と言われていますが、本種は枝の伸びがよく直立型、枝を切り込んでも弱ることもないので、もっぱら正月や慶事に生けられるサクラとして、切り花用に栽培されています。特に、栽培に力を入れているのが山形県で全国の出荷量の80%を占めると言われています。冷蔵庫や温室を利用して花期を調整、正月花～3月まで出荷されるようです。

本種は樹高もあまり高くはならず、枝も上方に伸びるので場所もとらないなど最近では庭木としても人気があるようで、私の近くでは3ヶ所ほどで路地植えとなっています。

芦屋市・翠ヶ丘町

	開花	満開
2021年	2月28日	3月5日
2022年	3月13日	3月15日
2023年	3月11日	3月13日
2024年	3月11日	3月18日
	(3月11日)	(3月17日)

（内は別の樹の開花と満開日です。写真はこの樹）

・本種に付いても昨年、一昨年共温暖な時期に開花し、花期も3日と短かったことがわかります。一方、今年は花期も8日～9日間と上記の実桜系と同様な傾向となりました。恐らく母種のシナミザクラのDNAを引き継いでいるのでしょう。



5. ソメイヨシノの切り枝・加温テストの結果などー2

*2月11日の切り枝加温テスト

この2本の枝のテスト結果は前報で詳述した通りです。その後3月15日まで加温を延長しましたが、新しい変化は認められませんでした。

***3月4日採取の山桜の切り枝・加温テスト・短枝7本花芽20個、加温5日程で全ての花芽が膨れ、内4個から白い蕾がのぞいたが開花は1輪のみ**
その後変化は見られなくなった。**栄養分不足**が原因と考えられる。

*2月19日採取、末端の短枝切り枝・加温テスト

通常、休眠打破の有無を調べる枝は、比較的根本に近い枝から採取している。昨年度の開花調査では、樹冠に近い枝（短枝）や長い横枝の先端部で開花が遅れるような現象が見られた。高所の枝の採取は難しいが、横に伸びた長い枝先からのサンプル採取は可能であり、右のような短枝2本を採取、加温テストを実施したが、変化が見られず、1ヶ月後も右のような状態・花芽動かず葉芽の1個先が緑色となっただけという結果であった。



*2月29日、長い枝先からの切り枝・加温テスト

上記のテスト中、長枝の先端短枝では変化が見られそうにもなかったもので、先短枝（短枝4本で構成）をテストに加えて見た。その結果、10日間経っても何の変化も見られなかった。この原因は？

- ① 先端部はこの時期でも休眠打破されていないのか？
- ② 先端部に養分や水分が届いていない？（揚水不足？）



*3月13日、長枝先端部の枝の加温テスト

上記の2点を確認する目的で上記の長い枝（SE）、通常の枝（S）及び他所の10mを超える長い枝の先先端の枝（IE）の3本の枝を本テストに加えてみた。7日加温での結果は下の写真のようになりました。左からS,SE,IEです。ほぼ、全ての花芽が膨らみました。①でないことは確か、芽の成長の様子からこの時期には全ての花芽は休眠打破されている。ただし、芽が開く為には「揚水」による水分だけでなく「養分」の補給が不可欠と判断されました。今年は2月中旬以降の降水量が多かったため樹冠、あるいは長い枝先まで「揚水」が届いたのでしょう。今年のソメイヨシノの開花状況を観るのが楽しみです。



以上